

平成27年度第2回国指定史跡会下山遺跡整備・活用検討委員会 会議録

日 時	平成28年3月23日(木) 14:00～16:00
場 所	市役所北館4階教育委員会室
出 席 者	委員長 安部 みき子 副委員長 藤川 祐作 委 員 江守 易世 委 員 大久保 文昭 委 員 仲谷 由利子 委 員 野間 靖雅 委 員 星野 剛一 (欠席) 委 員 近田 真 (事務局) 生涯学習課長 長岡 一美 生涯学習課文化財係長(学芸員) 竹村 忠洋
事 務 局	生涯学習課
会議の公開	■ 公 開
傍 聴 者 数	0人

1 会議次第

(1) 開会

(2) 議題・報告

- ①学校教育との連携について
- ②社会教育との連携について
- ③その他

2 提出資料

資料1 「平成26・27年度実施の会下山遺跡における学校教育との連携事業」

資料2 「平成26・27年度実施の会下山遺跡における社会教育との連携事業」

3 審議経過

(安部委員長)

それでは、本日の次第に従いまして、ただ今から議事に入ります。議題(1)「学校教育との連携」について、事務局より説明をお願いします。

(事務局：竹村)

<資料1に基づき、説明>

(安部委員長)

ただ今、事務局より説明がありましたので、ご意見、ご発言をお願いします。

(江守委員)

山手中学校の生徒は、会下山遺跡に行っているのですか。

(大久保委員)

ほとんど行ってないです。会下山遺跡を何とか活用しないといけないのですが、例えば、生徒会が何らかの形で、草刈り等でしたらできると思いますが、会下山遺跡に行って習いましょう、というのは、すでに小学校でしています。小学校の副読本『私たちのまち芦屋』の中でも会下山遺跡が紹介されていると思います。あれは何年生で使いますか。

(野間委員)

小学3、4年生です。

(大久保委員)

3、4年生で学習していますので、中学校より小学校が実際現地に行く方が良いと思います。

(江守委員)

30歳代の人から中学校の裏山で土器が出てきたので嬉しかったと聞いたことがあります。中学校でなくても小学校の時でも発掘してみるとか、ひょっとしたら土器が出てくるかもしれないというような体験があれば楽しいと思います。丹波竜のちーたんの里では、発掘の体験ができます。20分ほど掘っただけで、化石が出てきたらすごいって言うので、やっぱり体験があると小さい時の思い出ですよ。ずっと興味を持つ子も出てくるんじゃないかと思います。説明を聞くだけよりも。

(大久保委員)

発掘したら遺跡が出てくるものなのですか。

(事務局：竹村)

発掘したら遺跡は出てきます。ただし、史跡は文化財保護法で保護されていますので、発掘体験を行うことは難しいです。例えば三条文化財整理事務所に出土品がたくさん保管されていますので、その出土品を触っていただくとかならできると思います。

(江守委員)

丹波竜のちーたんのところは、現地の地層で発掘するのではなくって、四角い箱に岩石が入って

いて、その箱の中の岩石を探すと化石が出てくるようになっていきます。それでも、これがそうだよって説明してもらったら、子どもは嬉しいと思います。

(藤川副委員長)

山手中学校は校舎の建て替えを行う予定と聞いていますが、その際、中学校に会下山遺跡のコーナーを作って写真や土器を展示したら遺跡のアピールになるのではないかと思います。それで自分の学校の敷地に遺跡があることを知ります。興味を持つ、持たないは別にして、そういうコーナーを設けたら良いと思います。

(事務局：竹村)

今、担当部署にそのような話を相談しています。それが今後どのような形になるかは、まだ分かりませんが。

(安部委員長)

発掘の体験コーナーは、とても良いと思います。中学生の時の記憶は、一生残る記憶だと思います。昔はよく高校生と一緒に発掘調査に参加し、高校には考古学クラブがあったりして、みんな手伝いに行ったり、見たりしていましたが、そういう機会があったりすると、中学生もきっと印象が大きいと思います。そういうことができれば子どもたちにとってすごい良い印象になると思います。実際に発掘して「あー、こんなのがあった」っていうのは、やっぱり中学生か高校生で記憶が定着するっていうのは、それぐらいの年かだと思いますので、ちょうど良い機会だと思います。

(仲谷委員)

山手中学校に社会科クラブはありますか。

(大久保委員)

ないです。

(藤川副委員長)

私たちのころはありましたが、すでになくなりました。

(安部委員長)

昔は中学校にクラブがあって、その地域のことを知ろうと活動を行っていました。

(大久保委員)

会下山遺跡が中学校の近くにありすぎて、逆に実感が湧かないってことも多分あると思います。だからそういう投げかけを、あまりたくさん行って掘り返しても駄目ですので、せめて一回本当に発掘して出るものだったら、発掘体験させてもらうんだったら、これはまた違うと思います。実際に本当に古い何百年も前の土器が出てきたっていったら、それはやっぱり感動じゃないですか。そういう経験もなしにして、ただうちのこの学校の裏山は会下山遺跡があるんだよっていうのだけでは、正直、親近感は湧いてきません。すでに小学校で習っているの、あるのはよく分かっています。知識では分かっているんだけど、いざ実際どうなのかっていうのはよく分かっていません。といって全校生を連れてあそこまで上がるものでもないし、その類の部活もありません。文化的なクラブ、そういう部活みたいなのがあれば、いいのですが。

(星野委員)

現在、小学校の副読本を使って、どれくらいの時間をかけて授業をするっていうことになってますか。

(野間委員)

これは小学3・4年生の2年間使う教科書です。3年生の間は主に芦屋のまちの様子、それから4年生からは安全、防災であるとか、警察であるとか、消防であるとか、それから給水場、ごみ処理場などを勉強します。会下山遺跡のあたりを習うのは、やっぱり1時間からよく使って2時間です。

(星野委員)

市の文化財も全部含めて1時間ぐらいですか。

(野間委員)

会下山遺跡はまち探検の一つとして、芦屋の山側探検コースに出てきます。

(星野委員)

会下山遺跡は、この写真1枚なんですわね。

(野間委員)

はい。そこに会下山遺跡の説明があります。最初、「学校の周りを調べよう」から「このまち探検」に出て、さらに芦屋市の全体をもっと広く調べましょうということです。山側の探検、真ん中の探検、海側の探検と3つある中の、山側の探検で会下山遺跡が出てくるのであって、芦屋の歴史の中で出てくるわけではないんです。そういう扱いはありません。

(大久保委員)

もう少し会下山遺跡の扱いを大きくしてもらったらいいのではないのでしょうか。

(野間委員)

扱いを大きくすればいいのしょうけれども、ただ今は山側探検コースの中の一つとして扱っているんで、会下山遺跡だけをポンと取っちゃうと、他のところがやっぱり疎かになってしまいます。バランスを考えてこの副読本は作られていますので、難しいです。

(大久保委員)

何年か前に会下山遺跡の紙芝居を作った方がおられ、山手中学校の生徒たちはそれを見たことがあります。すごく上手くできています。それが非常に印象的みたいで喜んでいました。

(星野委員)

話が戻るのですがこの副読本は芦屋市内のすべての小学校で使われていますか。中学校になると何もないのですか。

(大久保委員)

ありません。

(星野委員)

芦屋という観点のものは何もないのですか。

(大久保委員)

ありません。中学校になると、世界に目を向けないといけないので、なかなか国内でもすべてできないような状況です。1年生で地理、2年生で歴史、3年生で公民を習います。だからあまりにも多すぎて、芦屋に目を向けるような時間がなかなかとれないので、そういう面で言ったら小学校の社会でやっていただかないと難しいです。テストに会下山遺跡が出るかって言ったら、出ない、本当に高校入試があるので、やっぱりその辺も考えるとあんまりあっち行きこっち行きできないので難しいです。中学校でこれ以上カリキュラムを増やすとパンクしそうです。

(安部委員長)

日本の歴史を中学校では習いますか。

(大久保委員)

たぶん、日本の歴史の中で、会下山遺跡についてちらっとは触れてると思います。登呂遺跡と

か出てきますので。だから、その際にちらっとは触れていると思うのですけれども、ただ芦屋みたいにここで触れるっていうのはないと思います。それでも自分の学校に、そういう遺跡があるんだっていう思いは、やっぱり持ってるんですよね。それはもう本当に大事なことだと思いますが、ただ詳しい時代背景や小学校の社会で習っていることと、歴史の授業で弥生時代あたりで出てくる、そこで会下山遺跡があるんだよ、じゃ、行ってみよう、っていうところまではいかない訳です。現地に行くには、そこで1時間が潰れてしまう。1時間を割いても良いとは思いますが、ね。だから、社会の時間なんかには1時間とか、会下山遺跡に行ってみても良いんじゃないかって気はするのですけれども。なかなか今は青空学習はしたがないから、もっと昔は教室を離れて今日は外に出て何か見にいこうとかありました。そういうことをする先生は減っているのは確かです。教室で完結する形が多いので。

(星野委員)

だいたい今の実態が分かってきましたが、例えば社会科クラブを作る、作らないっていうのは誰が決めるのですか。

(大久保委員)

それはクラブを作りたいという生徒がいて、その生徒達が顧問を見つけてということですが。しかし、やっぱり教師も人数が少ないです。特に運動部は2人～3人体制で作らないといけない部もあります。で、新しい部を作るなんてとんでもない話です。だから、なかなか難しいです。部活のことまで考えてられないですね。

(星野委員)

そんなに授業時間がタイトな中で、なぜ会下山遺跡の紙芝居の読み聞かせの時間が捻出できるのですか？

(大久保委員)

読み聞かせは私が精道中学校の時からしています。読み聞かせは、すごくいいんです。絵本も本当に素晴らしい絵本がたくさんあるし、この間、集会の時間があって、月にだいたい1回集会の時間があります。昼からだいたい1時、2時前ぐらいから2時半ぐらいまでですが、その時間に校長が話をしたり、他から来た人に話をしてもらったりします。その時、たまたま会下山遺跡の紙芝居を作った方と知り合いで、非常に絵が上手で、話も上手で、「会下山遺跡の紙芝居を作ったから先生どう？」っていうことで、「それはいい」という経緯です。紙芝居は、すごく本当に分かりやすくて。

(事務局：長岡)

紙芝居ではなく簡易の本になったものをいただいているので、お見せします。カラープリンターでご自分で印刷されて、製本テープを貼って本の体裁にしておられます。

(大久保委員)

それを小学校に配ったら良いじゃないですか。

(事務局：長岡)

課内で、すごく良くできてるし、印刷して配ったらいいと話しています。例えば作者にご了解いただき印刷して、それを配ったら良いという話を課内でしたりしています。最近、よく他市でも文化財について漫画やイラストで紹介したりして、それを印刷、冊子にして配っているので、そういう感じでできるのではないかとっています。

(江守委員)

紙芝居は、山手中学校だけですか。他の小学校などでは、していませんか。

(事務局：長岡)

他でも読み聞かせなどでしていると思います。今、芦屋は読書の町ということで、読み聞かせなど、いろいろ皆さんしてくださっていて、いろんなところで、そういうことをしていただいています。

(星野委員)

では、会下山遺跡の紙芝居は、作者ご自身の活動でされているのですか。

(事務局：竹村)

はい、生涯学習課はまったく関わっていません。

(星野委員)

生涯学習課から依頼などを調整するなどしていないのですか。

(事務局：長岡)

はい、していません。

(星野委員)

学校教育課が学校のカリキュラムの一環として入れないと、各校でばらつきが出てきますね。採用する学校と採用しない学校とで。

(事務局：長岡)

「本の虫ねっと」という読み聞かせのボランティアグループがあります。本の虫ねっとは、多くの学校に出入りし、活動されています。

(大久保委員)

浜の方はしてないと思います。山の山手、岩園、朝日ヶ丘小学校と山手中学校ぐらいじゃないですか。

(星野委員)

山手中学校では、たまたま大久保校長が集会の時間を上手く活用されたんですね。

(大久保委員)

そうですね、会下山遺跡の紙芝居は、地域の会下山遺跡の話ですから、そういうのはいろんなところでやってもらったら良いんじゃないのかと思います。せっかく簡易の本ができていたのなら増刷してもらって、せめてもう少しハードな良いものにしてもらって、各学校に配ってもらったらだいぶ違う。学校、幼稚園にも配ってもらったら良いんじゃないでしょうか。

(星野委員)

生涯学習課として、できそうですか。

(事務局：長岡)

生涯学習課でするなら、事業として印刷します。ただし、生涯学習課でする場合は、ハードなものではなくて、どちらかというと多くの皆さんに気軽に手にとってもらえるような、もうちょっと冊子のような、本というよりはリーフレットに近いものになると思います。内容は今のものを印刷させてもらおうと思います。

(星野委員)

これまでに作られている会下山遺跡のパンフレットのような文化財のシリーズのようなものですね。

(事務局：長岡)

あのようなものの方が良いと思います。印刷部数が多い方が良いと思います。色々な方法、切り口の問題だと思いますが、どこの学校も読み聞かせはいろんな方にさせていただいているので、そこをお願いするというのもあると思います。まずは知ってもらい、興味を持ってもらう。小学

校でも出てきますから、会下山遺跡があることは何となく知っていると思います。それとは別に、いろいろな方法でもっと知っていただく方が良いと思います。

(星野委員)

まず、知らなかったら絶対行かないし、次はちょっとでも興味が湧かない限り知っていても、あんなところしんどくて行きません。

(事務局：竹村)

中学校や小学校の先生は、会下山遺跡についてはご存知なのでしょうか。

(大久保委員)

山手中学校の先生は知っています。ただ、他の学校はどうなんでしょうか。若い先生がどれだけ知っているのか、意外と若い先生は知らないかもしれません。

(野間委員)

そうですね、研修のコースに今は入ってなかったと思います。若い先生でしたら、恐らく半数の先生が知らないんじゃないでしょうか。知っていたとしても、実際にどこにあるか、どんなものか、実際行ったことがある先生って、多分、一握りだと思います。

(事務局：竹村)

先生の研修の中で取り上げてもらうには、打出教育文化センターが所管になりますか。

(野間委員)

そうです。打出教育文化センターの研修担当に言えば、入れてもらえる可能性は十分あります。

(大久保委員)

生涯学習課の学芸員が講師をしたらいいと思います。

(事務局：竹村)

できます。

(星野委員)

それと、実際に土器を掘るって言ったら大変かもしれないですけども、先日、三条文化財整理事務所に行っていたら、近所の方が出前講座の後に来られて、こんな場所でこんな展示をしているのは知らなかったと言われていました。もう少し市民の方にも知ってもらいたいし、あと、

それこそ山手中学校はすぐそこなので生徒に来てもらえればいいと思います。

(大久保委員)

そのような活用は、今後しないといけないと思いますが、活用を含めて、やっぱり山手中学校の先生で会下山遺跡があるのは知っているけども、行ったことがある先生は半分ぐらいだと思います。私も行ったのは2, 3回です。あんなに近いといっても度々行くことはないし、3回くらいです。

(星野委員)

あそこまで登るだけでもしんどいです。

(藤川副委員長)

三条コミスクとしては、今のところは定例としては元旦の初日の出ウォーキングだけですか。

(江守委員)

この間、三条コミスクの推進委員会があった時に、復元高床倉庫の茅葺の葺き替えについて学芸員さんに説明いただきました。でも、はっきり言ってコミスクは三条分室の2階で活動していますが、3階で文化財の展示が行われているのはほとんど知らないんです。三条分室の管理人さんも知りませんでした。会下山遺跡の周りの人が知らないんですよ。三条町の自治会の皆さんも三条分室の2階で会議をするけれども、やっぱり3階に何があるか知らなくて、会下山の前に住んでおられる方も登っていなかったり、だからいつでも行けると思っているのかもしれない。だからちょっとしたきっかけなんですけれども、「3階の展示場に行ったらすごい興味あるんです」って言って、「また電話させてもらいます」ということで、電話番号を聞いて帰られた方もいらしたんです。何かきっかけを作ってあげないといけないと思います。何かきっかけですよ。

(藤川副委員長)

確かに平地にある遺跡と違って、山のとっぺんですから難しいです。

(江守委員)

ちょっと話が変わるんですが、今日どのぐらい復元高床倉庫の茅葺の葺き替えがされたのか、朝お天気が良かったから上がってきました。そしたら下りてきた時に、「上がってこられたんですか？」って言う方がたくさんいらしたり、会ったりして、「どうなってますか？」って言われるんですね。ですから、「ちょっとしんどいかも分からへんけど20分ぐらいで行けるんで、見てきてください」って言ったんです。もう春休みに入って、お孫さん連れてお孫さんが何か見たいって言って来てはるんだけど、「ここ上がるのはねー」って言われました。「ちょっとしんどいけど

も、私は30分で往復してきたから、気を付けて行けば大丈夫ですよ。土器とかだったら三条文化財整理事務所で触れるからいかがですか？」って言ったら「そしたらちょっと行ってみよか」って言って上がって行かれました。だから何かちょっと声がけとか、やっぱり前の時も出てたんだけどパンフレットでも置いていたら上がるのはしんどいけれども、そしたら三条文化財整理事務所に行って、実際に触れる、見れるっていうのがあったら、来た甲斐があると思います。

(藤川副委員長)

会下山遺跡の登山口にパンフレットを置く話はどうになりましたか。

(事務局：竹村)

パンフレットを入れる箱を探しています。まだ見つけられてないんですけれども。

(藤川副委員長)

ぜひ、早急にお願いします。

(大久保委員)

三条分室には、生涯学習課の職員がいるのですか。

(事務局：長岡)

生涯学習課の職員、嘱託、臨時的任用職員や文化財ボランティアさんがいます。

(星野委員)

あと、もう一つ、やっぱり芦屋市聖苑の横から登る道に比べたら山手中学校の中を通る道がやっぱり良いですね。学校を建て替えるのだったら、学校と道を分けられないでしょうか。

(大久保委員)

どうなんですかね。その辺はちょっとまったく聞いていません。

(事務局：長岡)

まだ多分そんなに細かいことは決まっていないと思います。

(仲谷委員)

中学校を通らないで入れるような道を作ったら良いと思います。あの道は、やっぱり歩きやすいし、足も滑らない、危険も少ないです。

(事務局：長岡)

もともとそこからがメインの入口みたいにしていたんです。最近、学校に部外者が入らないようにする前までは。

(江守委員)

聖苑の方から上がっていくとアンカーが出ていて、ここでひっくり返ったら怖いなって思います。

(仲谷委員)

狭いところで崖になっていたりして危ないです。

(江守委員)

結構、道も痩せてきてるなって、危ないですよ。

(安部委員長)

滑りますね。他にご意見はよろしいでしょうか。次の議題（２）の「社会教育との連携」について、事務局から説明をお願いします。

(事務局：竹村)

<資料２に基づき、説明>

(安部委員長)

事務局より説明がありましたが、ご意見等、ご発言をお願いします。

(星野委員)

出前講座を平成２６年度と２７年度にしていますが、これはどこかから希望があった場所に行くのですか。

(事務局：竹村)

はい、そうです。

(事務局：長岡)

出前講座は市民が対象で、２０名程度集まったグループでお申込みいただくことになっています。文化財係では遺跡めぐり等がメニューの中に入っていて、会下山遺跡に実際に行ってご

説明させていただくメニューがあります。会下山遺跡ばかりではないですけれども、文化財係の方は年間5件ぐらいお申込みがあって、割と多くある方で、一つのメニューで5件は多い方です。

(星野委員)

今年は、会下山発掘60周年との事なので、前回の50周年のシンポジウムのメモを見ました。先生方のコメントは、”市民の方が会下山遺跡の現地に行ってくれない！市民が動いてくれないと遺跡の活用も保護も進まない！”これが一番の問題だと。その後、10年経った今も何も変わっていないという事は、10年に一度の打ち上げ花火（シンポジウム開催）では、効かないという事ですので、こまめなきっかけ作りが必要だと思います。出前講座は、どうしても待ちの姿勢になってしまいますので、公民館等で年に1回は、”文化財の展示”と併せて会下山遺跡とか文化財関係で、みんなが興味を持つような”講座みたいなもの”をやっていないといけないと思います。今回の発掘調査60周年、史跡指定5周年をチャンスとして利用したら良いと思います。

(藤川副委員長)

市指定文化財を指定するときに、なぜ図録は作らないんだと常々思っています。一つは市指定文化財に指定した時に、市民センターで関連の展示をして、関連の話をする場を設けたら良いと思います。図録を作る予定はないんですか。指定した以上は図録が出てきて、展示すべきだと思います。将来的に、まず図録が刊行されなければ駄目だと思います。現在、指定文化財は何件ありますか。

(事務局：竹村)

15件です。

(藤川副委員長)

もう15件ありますか。毎年1件、指定しているのですか。

(事務局：竹村)

震災後はしばらく空白期間があるのですけれども、平成2年度に初めて第1号として親王寺所蔵の考古資料が指定されて、現在、15件です。

(安部委員長)

会下の山の場合、まずは整理をしないといけないと、すごく思います。「たくさん来て来て来て」って言って来てもらって、遺跡内の登山道でこけて怪我をしたっていうのは大変です。やっぱり、まずすることの優先順位を先に決めて、大々的に広報することもすごく大事ですが、それで来て

もらって「え！」っていうのは、一番まずいと思います。やっぱり早急にいろいろ変えないといけないところもあるし、足元も悪いし、山手中学校から登れないのだったら、今の登山道をそれなりに整備する必要があります。先日、会下山遺跡に登った時に、住居跡がここと言われても、草しか生えてなかったです。草刈り以外に遺構の所だけでも、砂利を敷いて草が生えてこないようにするとか、少なくとも住居跡が分かるような改善が必要です。やっぱり実際遺構を見れるよう、草が生えない工夫っていろいろあると思うので、訪れた甲斐があるような整備が必要です。やっぱり遺跡として整備して、せっかく国史跡に指定されているのだから、ただ単に山登って気持ち良かっただけではなく、やっぱり高地性集落があったことを、何とか見える工夫を、その二つは最低してほしいと思います、早急に。

(事務局：竹村)

部分ですが、来年度、一番仰っている下りていく登山道の枕木の箇所は修理する予定です。ただし、そこしかまだ触れません。

(安部委員長)

斜面になっていて、基盤岩が風化して細かい砂になっていて、ちょっとだけでも木の杭でも土留めしてもらおうとだいぶ違います。そういう所の姿勢っていうのも大事だと思います。

(仲谷委員)

来年度は危険箇所の修理のみですか。他に予定はありますか。

(事務局：竹村)

整備ということでしょうか。

(仲谷委員)

これまでもいろいろなアイデアを出していますよね。そういったものを来年度に着手できないのでしょうか。

(事務局：竹村)

できません。今も土地所有者である国土交通省や県西宮土木事務所と協議は進めています。何とか史跡の管理団体になって、補助金を得て、整備をしたいと考えています。

(安部委員長)

今回の発掘調査60周年、史跡指定5周年を材料にして押すことはできないのでしょうか。

(事務局：竹村)

50周年の時にはルナ・ホールが満席になりまして、それをきっかけに国史跡指定に向けての機運ができました。前回、そういう動きがあったので、今回やはりどうにかシンポジウムをきっかけに史跡の整備につながるようなそういう風な動きを作りたいと考えています。10年前は、まだ国史跡指定は、夢のような話だったんですけども。

(事務局：長岡)

シンポジウムをするぐらいの予算がつきますが、本格的に史跡整備をしようとする、予算もそんな額では足りません。また史跡に指定されていますから、文化財保護法に基づく許可が必要です。さらに、急傾斜地で砂防法の規制も受けています。お金以外にその辺で整備工事をするのにとっても難しい課題があるのですが、ただ危ないのは放っておけないので、しないといけません。

(仲谷委員)

遺構がはっきり見えるようにしなければならぬという話ですが、草刈りをすれば何とかなるのですか。

(事務局：竹村)

いや、草刈りをしても草はすぐに伸びてきます。

(仲谷委員)

安部委員長のご発言のように、住居跡の中に砂利を敷いて草が生えないようにすれば、住居跡の状態やサイズはよく分かりますが、弥生時代には実際に住居内に敷きつめて生活をしていたという形跡は発見されていないと思いますので、その辺も課題になってくるでしょうし、そうなる草刈りしか方法がないとなるとかなり大変です。何とかならないかと私も思います。

(事務局：竹村)

草刈りは予算もかなりかかります。

(藤川副委員長)

尾根上にあるC・E住居跡は土砂が堆積しないから何とか現状を保っているけれども、斜面にある遺構は上から土砂が流れてきています。復元高床倉庫が建っているJ地区は昔の面影はありません。お金は別にして、難しいと思いますが、何とかしなければなりません。窓口は六甲砂防事務所ですか。

(事務局：竹村)

国土交通省の六甲砂防事務所と、兵庫県の西宮土木事務所、文化庁となります。

(藤川副委員長)

斜面は上から土が流れてきて埋まっていつているけれども、将来的には尾根上の遺構は放っておいたら土砂が流出して消滅する恐れがあるから、そこは何とかしなければならないと思います。

(事務局：竹村)

史跡は現状保存が大原則で、一番大切です。ですから、本当に条件とかじゃなくて史跡は壊れたら駄目なもの、消滅したら駄目なものです。

(事務局：長岡)

法の規制等、クリアしなければならない条件がたくさんありますが、ただそう言っていると史跡が壊れていくので何とかしないといけないとは思っているんですけども、西宮土木事務所等と相談していますが、確かに危ないところと崩れてきてるところが先です。

(藤川副委員長)

見学者が史跡でケガをされたら大変です。

(事務局：竹村)

国史跡は地元が盛り上げてるところが多いのですが、そういう意味では会下山遺跡は三条町や山芦屋町になると思うんですけども、社会教育と直接関連してくるか分からないんですけども、三条コミスクさんと何か連携できないものでしょうか。私もそれが何なのか分からないんですけども、例えば行事で会下山遺跡を活用されるとか、学芸員が行って説明させていただくとか。

(江守委員)

講演会、勉強会みたいな三条コミスクが主体の事業に、学芸員に講師として来てもらうとか、そういうことができます。

(事務局：竹村)

三条コミスクは、構成が広いんですね。

(江守委員)

地域は、国道2号線よりも北側、芦屋川より西側となっています。

(事務局：竹村)

あと、三条コミスクは色々な構成団体っていうんですか、自治会などが入っていますよね。

(江守委員)

そうです。自治会は8町9自治町内会があります。それと子ども会は6町分あります。地域に呼びかけようと思ったらコミスクを通すと、みなさん集まってくれます。

(事務局：竹村)

そういう意味では学校教育とは離れてしまっていますが、子ども会と上手く連携できないでしょうか。

(江守委員)

そうですね。芦屋市子ども会連絡協議会で何か夏の行事とかで、活かしてもらえるような事も考えることもできます。

(事務局：竹村)

学校がカリキュラムの話がされていましたが、なかなか授業の中に組み込むのがすごく難しいということですので、そういう意味では子ども会で活用していただくのも良いのかなと思っています。

(江守委員)

夏休みの宿題等で何かきっかけになったらっていうのは、やっぱり親が言うんですよね。例えば夏休みの社会見学とか、夏休みの宿題にできるようなものってないですか。だから去年の夏も会下山遺跡を見せたんですけれども、実際には行ってないみたいなので、こういうことができますよっていうのを日程も組んでしてたら参加者は多いと思います。

(事務局：竹村)

三条分室の2階で事業、イベントはされているのですか。料理教室とか。

(江守委員)

料理教室はしてますね。

(事務局：竹村)

そういう事業の一環として、2階の部屋を使えますね。

(江守委員)

集まることはできます。

(藤川副委員長)

話を変えますけれども、今日は近田経済課長は出席されていませんが、経済課長がこの委員会の委員になっている理由はなんですか。

(事務局：竹村)

近田経済課長が委員になっている理由は、一つはハイキングと連携した会下山遺跡の活用です。もう一つは観光です。これら2つを所管されてる経済課の課長が委員になっています。

(藤川副委員長)

前回、近田委員は、芦屋市の観光について積極的に行っていないような発言をされてしまったので、その辺の意図がわかりませんでしたので、確認させていただきました。観光協会や商工会との連携はどうなっているのでしょうか。最近ワンコインで町おこしで食べ歩きっていうのがありますね。

(事務局：長岡)

バルですね。

(藤川副委員長)

バルのスタンプラリーの景品が卓上カレンダーで、市内の各名所のイラストが出てくるのですが、そこに会下山遺跡は出てきていません。そのあたり、同じ市役所なので、生涯学習課と経済課がもっと連携すれば、できると思います。だからそういう横の連携、町おこしの一環として、経済課にそういう音頭をとってもらわないといけないと思ったのですが、そういう話ができていないのは残念です。

(事務局：長岡)

多分、町おこしというか、そういう面で今、地域創生っていうので、芦屋の魅力をどのように発信するのか、課を関係なくして市として取り組んでいます。

(星野委員)

確認ですけれども、記念シンポジウムの開催までに、登山道の安全対策工事は終わるんですか。

(事務局：竹村)

それを意識して終わらせようと思ってます。

(星野委員)

それと、シンポジウムに私みたいな世代ばかり行っても、やっぱり若い人に来てほしいです。長岡京市に行くと、古墳の復元シンポジウムをやっていて、子ども委員を会に入れて、その古墳の写生大会をして、その表彰式を兼ねたら親が絶対ついてきます。なおかつ学者ばかりでなくて、子どもを委員の一人にして座らせて、ちゃんと意見を言わせていました。古墳を守る努力をみんながしているのが分かって、今日は聞いて良かったというような。若い人が来るような工夫もした方がいいと思います。そうしないと若い人への継承ができないと思います。今度する時は、それこそ夏休みの宿題の一環のようなことができれば、親御さんも助かると思います。

(事務局：長岡)

公民館と毎年やっている勾玉作りは好評です。たぶん夏休みの宿題にされていると思います。

(星野委員)

今回、写真展をやるとか、いろいろ少しずつできたらいいと思います。茅葺の葺き替えは、あんな山の上に家族が来るのかと思っていましたが、結構来ていました。何か折を見てやっていく工夫をしたら良いと思います。

(事務局：竹村)

今度、ルナ・ホールで会下山遺跡発掘調査60周年、史跡指定5周年の記念シンポジウムを8月20日に開催する予定です。それとは別に子どもを対象にした事業もしたいと思っています。今までは勾玉作りだけでしたが、例えばまず1日目で貫頭衣をみんなで作って、2日目はその貫頭衣を着て勾玉を作って、その中の一つとして会下山遺跡にも行って何かをしたりとか、まだメニューにはなっていないんですけど、何日間かかけて、子どもが一日で勾玉作って終わりじゃなくて、もうちょっと何か楽しめるような事業をしたいです。

(仲谷委員)

土笛を作って会下山遺跡でみんなで吹いて演奏したら、とっても楽しいですね。

(事務局：竹村)

それは良いです。

(事務局：長岡)

そのようすをJ:COMに撮影してもらって、広報番組で放映してもらったらいいと思います。

(藤川副委員長)

せっかく復元高床倉庫がきれいになるので、写生会をしたらいいと思います。その絵を市民センターに展示するのもいいと思います。

(事務局：長岡)

会下山遺跡の山頂からみた景色の写生もいいですね。

(事務局：竹村)

そのような子どもを対象にした事業と、他に市民の方を対象にした会下山学のような何かをしたいと課内で話をしています。ただし、一過性、打ち上げ花火になってしまわないように、今年度だけして、来年度からはまた戻るのではなくて、次につながるような形のものにしないとけないと感じています。

(藤川副委員長)

今日は経済課長が出席していませんが、そういうことも考えていただきたいと思います。

(事務局：竹村)

いずれ商工や観光との関係のテーマを議題にしたいと思っています。来年度に取り上げたいと思います。

(江守委員)

芦屋市ガイドマップは、広報国際交流課が出しているのですか。

(事務局：竹村)

そうです。

(江守委員)

これに遺跡や会下山遺跡が特集されたことがあるのですか。今回は、市内のお地藏さんが特集されています。

(事務局：竹村)

前回は筒形の郵便ポストでした。

(江守委員)

水車の石臼や文化財はみんな知ってると思いますが、そういうのが特集されたら面白いし、会下山遺跡のPRにもなると思います。次回の案にはいかがだと思います。

(安部委員長)

そうでしたら、その他に何かないでしょうか。

(各委員)

<意見等なし>

(安部委員長)

それでは本日の議事はすべて終わりました。これで検討委員会を終了いたします。どうもありがとうございました。

<閉会>